



さいとう みねゆき
西藤 巖之さん(60歳) 弥富市寛延

いろいろな野菜を作っていききたい

弥富市で水稲オペレーターをしている西藤さん。五年前にお米の裏作としてキャベツやブロッコリーの栽培を始めました。

「それまでは父から仕事を受け継ぎ、稲や麦を育ててきました。他の作物に挑戦することになったのは地域のオペレーターさんたちがキャベツ部会を作ったのがきっかけです。自分の始めた最初の年にキャベツが史上最高値を記録し、部会でも種蒔きや定植の機械を導入して作付面積を拡大しました」。

順調な滑り出しから始まった西藤さんの挑戦ですが、その翌年に新型コロナウイルスが流行し、需要は低迷。売場の一つとして産直への出荷を始め、様々な作物に挑戦するようになってきました。「最初はキャベツの他にブロッコリーを栽培していました。オペレーターの仕事があって夏場の出荷はできていませんでしたが、事業を後継者に引き継ぎ、昨年からは夏野菜にも挑戦しています。産直として幅広い作物を作りたいという思いもありますが、孫たちに自分が作ったものを食べてもらいたいというのも大きいですね。これからは毎年新しい作物に挑戦していくつもりです」。

新たなチャレンジを続ける西藤さん。今年の六月には当JAが行っている就農塾に加わり、野菜づくりについて

て改めて学びました。

「最初は夏の野菜と冬の野菜の違いに戸惑いました。キュウリやナスのような夏野菜は一本の木からたくさん良いものが実るように育てたい。収穫が遅ければ木に負担がかかり、次に出来るものに影響するし、収穫の時期には秋冬野菜の準備も始まりです。一つの野菜が終わる前に次の野菜が来るので忙しくなりました」。そんな西藤さんは今年の冬も新しくカリフラワーに挑戦。黄色や紫色をしたカリフラワーとブロッコリーを合わせてカラフルなサラダなどに使ってもらいたいと話します。

最後に産直の利用者に向けて「安全安心な野菜を作っていきます。ぜひ手に取ってみてください」とメッセージをいただきました。



オレンジ色があざやかなカリフラワーは西藤さん今年一押し野菜です。